

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690600042		
法人名	NPO法人生活支援センターアットホーム新川		
事業所名	グループホーム沖田金さん銀さん		
所在地	滑川市沖田新41		
自己評価作成日	平成30年1月16日	評価結果市町村受理日	平成30年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成30年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活のなかで、掃除、食事準備、畑仕事など一人一人出来る範囲で役割、やりがいを持って頂いている。 ・小中学生の訪問。歌や踊りのボランティアさんにも来てもらい楽しい時間を過ごしていただいている。 ・火災訓練には、近隣の人たちにも参加をお願いして避難誘導して頂いている。 ・誕生会では、本人の希望のメニューを、お聞きし食べてもらっている。家族も招いて楽しい食事会としている。 ・花見や近隣(東福寺野公園、新川牧場など)へのドライブを楽しめました。 ・入居者みなさんと、昼食を食べに外出しています。 ・体操やレク活動では、みなさん参加され良い運動にもなっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人理念を基に運営方針を職員全員で話し合い、それらを利用者一人ひとりの人格を尊重し、個々の思いや意向に沿ったケアに反映し支援している。また、契約時や介護計画見直し時には、不安や疑問のないよう、家族に丁寧に説明し同意を得て、サービスの提供に努めている。 ・近隣住民の協力を得て防火訓練を実施したり、地域の小・中学生の訪問、ボランティアを受け入れるなど、地域と積極的に関わりを持ち、いざという時の地域との協力体制づくりや、利用者の方たちが穏やかで楽しい時間を過ごすことができる支援をしている。 ・ドライブ、買い物、外食など、普段行けない場所への外出の機会を多く持ち、その際には車いすの利用者も本人に合わせた移動の配慮があるなど、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と事務所の見やすい場所に、掲示している。 職員は理解していると思う。	年度初めに、法人理念を基に職員全員で前年を振り返り、運営方針を作成している。運営方針は職員のみならず、家族にも配布されている。月2回の職員会議でその都度、周知と理解を図っている。	事業所の目指すサービスの在り方を端的に示した、事業所独自の理念を職員全員で作成し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられる支援に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月毎のホーム便りを地域の方にも届けている。おはぎを作って近所に、おすそ分けをしている。野菜やお菓子など、お礼に頂くこともある。地域の小中学生が訪問、合唱など楽しませてもらっている。火災訓練には近隣の方の参加もある。	町内会に加入し、回覧板でホームの行事を案内したり、事業所広報誌(2か月毎)を届けたり、地域の小中学生の訪問やボランティアの受け入れなど、地域と身近な交流を続けている。また、近隣の方々の協力を得て防火訓練を行ったり、近隣の人たちとの馴染みの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の席で、認知症の方の支援、理解を話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	いろいろな意見を聞いて、施設運営に役立てている。行政や地域の方々と情報、意見交換することでサービスの向上に努めている。ご家族の参加もあり貴重な意見を頂いている。	地域包括支援センター職員、自治会、民生委員、家族、法人役員、代表等が出席し、運営状況や活動報告、委員会報告をし、出席者から率直な意見を頂いている。また、地域の情報を早々に得るなど双方向の会議となっている。出席されていない家族に議事録を送付し伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの研修会に参加している。運営推進会議に市社会福祉協議会、包括支援センターの職員に参加していただいている。	市主催の研修会への出席、月1回の介護相談員の受け入れ、運営推進会議の際に相談や助言を得るなど、日頃から市担当者と協働関係の構築がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族との合意の上、夜間のつなぎ服を着用している。(下剤服用時)日中の排便コントロールも行っている。今後、身体拘束が解除できるよう支援方法の検討をしていく。	身体拘束の弊害について職員会議で話し合い、個々のケースごとに身体拘束に繋がっていないかケアの振り返りをしている。生命に危害を及ぼす場合や疾病悪化で短期間身体拘束する場合に限り、家族に拘束内容を説明し同意を得ている。	やむを得ず身体拘束を行う場合、拘束までの経緯、実行の記録、利用者の心身状態、定期的なカンファレンス記録などの書類が求められていることから指針、マニュアルを作り、身体拘束をしないケアの体制を作る取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修での資料を閲覧し、虐待は絶対行っではないけない事と周知を行った。また、言葉遣いでの良い例、悪い例での資料を配布、掲示し職員に周知を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用する利用者は現在までいないが、今後必要のある利用者には関係機関への相談、支援に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての事項について理解されるまで丁寧に説明し同意を得るようにしている。家族さんからの質問や要望などあればお聞きし意向に応える姿勢を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時やケアプランの作成前や説明時には要望を伺うようにしている。日頃の様子など詳しく伝え、家族の思いも聞いている。	家族の来訪時や介護計画の見直し時、広報誌(2カ月毎)の通信欄に日頃の様子を伝えたり、家族の要望や意見を聞き取っている。家族からの要望・意見は、ミーティングノートや職員会議で職員全員で共有し、サービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議や各種委員会が設置しており、会議の場でそれぞれ意見交換が行われている。職員会議でも意見が交わされている。	法人で各種委員会が設置されており、職員は委員会活動や月2回の職員会議で意見交換を行うなど、日頃から良好な職員関係を築いている。出された意見は主任会議で報告・協議され、運営やサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の面では年々改善されている。法人全体で職員のレクリエーションを行い福利厚生と職員交流を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会に参加し、職員会議で報告している。介護技術のDVDを入居者、職員で視聴した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会が実施している交流研修会に参加している。市のグループホーム間での交流研修では、お互い訪問等の活動を行い情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、家族や本人からの希望や思いを聞き取り理解する。 面談の際には場を和ませる雰囲気づくりに心掛け、思いを受容する姿勢で関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時や入所後は家族と積極的に話し合い、本人にとってどのような支援が大切なのか共に考える姿勢で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、関係機関を通じて必要とされるサービスを見極めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来ること(掃除、洗濯物たたみ、畑仕事)など本人様の意向を伺いながら手伝って頂いている。感謝の言葉も伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診には家族に付き添いをお願いしている。誕生会や催しには出来るだけ参加をお願いし面会、訪問する機会を多くしてもらっている。面会時には日頃の様子を伝えたり、また2か月毎の広報誌にて近況報告も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば、自宅に行ったり近辺までのドライブをしている。以前利用していたスーパーや馴染みのお菓子屋に買い物に行ったりしている。	家族の協力のもと、自宅へ外泊したり、外出、外食に出かけている。また、本人の希望を聞き、以前利用していたスーパーやお菓子屋へ買い物に行ったり、外食へ出かけたしたりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や相性など考慮しながら席の配置を工夫している。 レク活動や軽作業をする中で、職員も中に入り利用者同士の関係性を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所、入院時には今までの経過や情報を各機関に提供している。入院の場合は入院先を訪問し経過を見守るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で、本人が望んでおられることを考えながら接するようにしている。センター方式を活用し、本人の思いや意向を記入し把握できるよう努めている。	日常のふれあいの何気ない会話の中から利用者の思いや意向を聞き取り、それらをセンター方式(C-1-2)に記入し把握している。また、ひもときシートを使って分析を行っている。それらを月2回の職員会議で職員全員が利用者一人ひとりにとってのその人らしい暮らしについて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活歴や習慣などを家族にお聞きしている。日頃の会話の中からいろんな情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自に合った家事での役割やレク活動を行っている。関わりの中で本人さんの表情や言葉を記録しながら職員間での情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用しアセスメントを行っている。ケアプラン作成時には本人や家族の思いもお聞きしている。職員会議で各担当者からの意見も反映させている。	本人・家族の要望や変化に応じて本人・家族がよりよく暮らすための支援について介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子や声かけの内容なども細かく記入するようにしている。しかし、気づきや工夫の記録がされていなく今後の記入に努めたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の低下により当施設での入浴が困難になってきた方への対応として家族に説明、設備の整った施設への転居を提案するなど状態の変化に合わせた支援を行っている。急な受診介助にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小中学生の訪問や演芸ボランティアの受け入れで利用者に楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を確認した上で、かかりつけ医を決定している。決められない時は、施設の協力医療機関を紹介している。 受診時は基本、家族が同行するが緊急時や都合の悪い時、また遠方の方は職員が同行する。	受診は、本人・家族等が希望する医療機関・医師にかかっている。事業所の協力医は、月1回往診があるので、早期治療に結びついている。家族の付き添い受診時は、日頃の健康状態を記した書類を持参してもらい、適切な医療が受けられるよう支援している。日頃からかかりつけ医と綿密な連絡をとり、症状改善に心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護職の配置がない。 家族との受診時や往診時には介護職から日常の様子や情報を医師に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行っている。入院中は面会を行い本人の状況を確認したり、病院関係者から情報を得ている。また連携室の看護師との連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合や終末期での対応等においては、入所時に説明を行っている。 看取りについては、医師、看護師との連携も必要なので行なっていない。	入所時に、重度化した場合や終末期の対応について十分に説明を行い、利用者、家族に理解を得ている。利用者の状態変化時には、主治医・家族・事業所が安心と納得が得られるよう話し合うなど、利用者、家族の気持ちの変化や思いに注意を払いながら支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成して見やすい場所に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間と日中を想定して避難訓練を実施、消火器訓練も実施している。訓練時には近隣の方にも参加してもらい協力を得ている。シェイクアウト訓練も行っている。	年2回、近隣の方々にも協力を得ながら、日中と夜間を想定し、火災時避難訓練やシェイクアウト訓練などの訓練を行っている。法人では自然災害対策のマニュアルの見直しを行い、事業所内では地域の防災マップ、ハザードマップなどの情報収集を行っている。備蓄品の備えをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を理解し、尊重しながら各自に適した対応を行っている。接遇委員会で作成した「勧めたい言動、避けたい言動」の書いた用紙を見やすい場所に掲示した。	利用者個々の尊厳を守り、プライバシーの確保を職員一人ひとりが、意識を持って関わっている。法人接遇委員会が中心となり、職員のアンケートの中から出てきた『勧めたい言動、避けたい言動』の周知を図り、日常的な確認と改善に向け、事業所全体で取り組んでいる。	来訪者の面会簿の取り扱いについて、事業所は、地域に開かれ地域と密着しつつも、プライバシーの保護の徹底や個人情報の漏洩防止が責務であることから、面会簿の記入方法の改善に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク活動や家事手伝いなど本人の意向を必ずお聞きして行ってもらっている。 自ら、お手伝いをしてくださる方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ自由に過ごして頂いている。パズルや数字あわせなど好きな事をしたい時にしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは、個々でして頂いている。 わからない方においては職員がお手伝いしている。髪カットでは、髪の長さや髪染めなど希望に応じて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根とり、盛り付け、お茶入れなど出来る人にはお願いし、一緒に行っている。 おはぎやお好み焼き作りなど、一緒に出来ることを楽しみながら行っている。誕生会の日には食べたい物を提供している。	利用者の好みや意向を踏まえたメニューを工夫し、毎食調理員が調理している。食事の一連の動作を利用者と共に職員が行い、一緒に食事を味わっている。行事食、手作りおやつ、誕生会には利用者の食べたいものを提供する等、「食」を通じた様々な支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に応じて、具材を食べやすい大きさにカットをしたり、パサパサしている物にはトロミを付けるなど食べやすいように工夫している。 夏季は、おやつにゼリーの提供もしながら水分補給も兼ねて食べてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて毎食後、洗面所での義歯洗浄、歯磨きを行ってもらっている。 入れ歯に違和感があると話された利用者には、家族に相談し歯科受診をしていただいた。 義歯の調整をされ解決されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を見て、声かけ誘導を行っている。 排泄チェック表を作成、活用している。	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握し、プライバシーや尊厳に配慮して、時間ごとの誘導や声かけを行っている。また、気持ちよくトイレで排泄できるよう、生活リズムに沿った支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事や水分を出来るだけ多く摂取してもらっている。乳製品(牛乳やヨーグルト)など、おやつに提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴を行なっている。その日の気分で拒否があり、入れなかった場合は翌日に変更するなど対応している。	利用者の体調や希望に合わせて、入浴日の変更をするなど、週2回を目安に入浴支援をしている。ゆず湯、リンゴ湯など季節感や香り・色を楽しみながら入浴ができる工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで自由に休んで頂いているが、昼夜逆転にも注意しながら日中の活動性にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は、個々の個人ファイルに綴じてあり職員が内容をいつでも確認できるようになっている。薬の変更や追加があった場合は、状態を観察し主治医への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方には、食事の準備(盛り付け、お茶入れ)や洗濯物たたみ等を手伝ってもらっている。畑仕事の好きな方では、作物の収穫を手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や希望があれば、散歩やドライブに出掛けている。花見や梨狩り、外食にも出掛けたりと楽しんでいただいている。	年間行事計画に基づいて、気候や利用者の体調に考慮し、ドライブ、買い物、外食などに出かけている。また、利用者の希望に応じて短時間でも戸外へ出る機会を積極的に作っている。車いすの利用者も、本人に合わせた移動の配慮があるなど、一人ひとりが外出を楽しめる支援の取り組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは施設で管理している。 以前、少しの金額を本人さんが所持しておられていたが、家族さんからの要望にて施設側での管理となった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	妹さんや息子に電話したいと言われる方には支援している。 みなさんが年賀状を、家族に送った。個々で書ける範囲での文字を書いていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理場と共有スペースが対面式であり全体を見渡せることができる。季節ごとの行事の写真を目のつく所に貼ったりして楽しんでもらっている。	共用空間は、天井梁の木材が室内に温もりと開放感を醸し出し、安心感のある空間となっている。ロビーや廊下の壁面には、年月をかけて利用者と職員で制作した貼り絵が掲示されている。職員は、今の環境が利用者にとって居心地の良さや、心身の活力を引き出す環境にあるか、日常的に注意を払って整備を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係や相性なども考えて席の配置を決めている。ソファに座られる時は自由に座っていただき利用者同士の会話も楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れている物や愛着のある物を持って来ていただいている。 居室内の環境整備では必要に応じて家族、本人と行っている。	居室は、明るくゆったりとした空間にクローゼット、ベッドが置かれている。また、利用者が居心地よく過ごせるように、自宅で使い慣れた物を傍に置くなど、本人と家族で環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	3か所のトイレには、すぐにわかるように張り紙をしている。 中玄関には、長椅子を置き安全に靴の脱ぎ履きをして頂いている。		

(別紙4(2))

事業所名 沖田金さん銀さん

目標達成計画

作成日: 平成 30 年 3 月 21 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	・法人全体の理念は掲げているが、沖田金さん銀さんにおける独自の理念が掲げられていない。	当施設の理念を職員全員が周知し、より良いサービスへと繋げていく。	・職員全員で理念を考え作成する。 ・わかりやすい項目で誰もが周知でき、取り組めるものとする。 ・職員会議等で理念に沿ったサービスが行なえているか話し合い確認を行う。 ・理念の言葉、内容は常に見える場所に掲示する。	12ヶ月
2	5	・身体拘束を行うにあたって家族への説明、同意は得ているが経緯や詳細な記録がなされていない。 * 拘束内容は、夜間、下剤服用時につなぎ服を着用している。	職員間で共通の意識を持ち、身体拘束が解除出来るよう取り組む。	・日中での排便リズム(コントロール)に努める。 ・つなぎ服を着用した際は、排便状況や利用者の様子、拘束を行った時間など詳細に記録を行う。 ・記録や話し合いの中で、常に解除に向けての対応、取り組みを行う。	12ヵ月
3	14	・来訪者の面会簿において誰もが閲覧できる書式となっていた。その為入居者、家族へのプライバシーの保護、配慮に欠けていた。	個人情報、プライバシー保護の徹底を行う。	・面会簿の用紙を、一枚ずつの物に変更。 ・用紙を入れる箱を準備し記入後は、その中に入れてもらう。 ・面会簿綴りに綴じ、事務所で保管をする。	0ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。